

Dreamweaver CS5で作 るiPhoneサイト制作

たにぐちまこと

Dreamweaver Extensionでパワーアップ

Dreamweaverは、Extensionを利用して機能を拡張することで、本来のソフトでは実現できないような機能を利用出来るようになります。スマートフォンの開発には、次のようなExtensionをインストールしておくると便利です。

■iPhone site extension for Dreamweaver CS4/5

http://h2o-space.com/iphone_dw/

Dreamweaver CS4/5で iPhoneサイトを制作するためのExtension。テンプレートやツールバーが追加されます。

■HTML5 Pack

<http://labs.adobe.com/technologies/html5pack/>

Dreamweaver CS5で、HTML5とCSS3を利用出来るようにするためのExtension。コードヒントの追加や、「Multiscreen Preview」が追加されます。

■Zen Coding

<http://code.google.com/p/zen-coding/downloads/detail?name=Zen%20Coding.mxp&can=2&q=>

Dreamweaverで、『Zen Coding』を利用することが出来るようになります。これを利用すると、非常に短いコードでHTMLを記述できるようになります。

Extensionのインストール



Extensionを Dreamweaverにインストールするには、.mxpファイルまたは.zxpファイル（CS5専用のExtension拡張子）をダウンロードし、「Adobe Extension Manager CS5」のアイコンにドラッグドロップするか、ファイルをダブルクリックするとインストール作業が始まります。

あとは指示に従って、Dreamweaverを再起動すれば使い始めることができます。

詳しくは、次の文書なども合わせてご覧ください。

http://bit.ly/adobe_iphone_site

ライブビューで、WebKitの表示を確認

スマートフォンサイトを制作する場合、CSS3を利用して装飾することが多くなります。



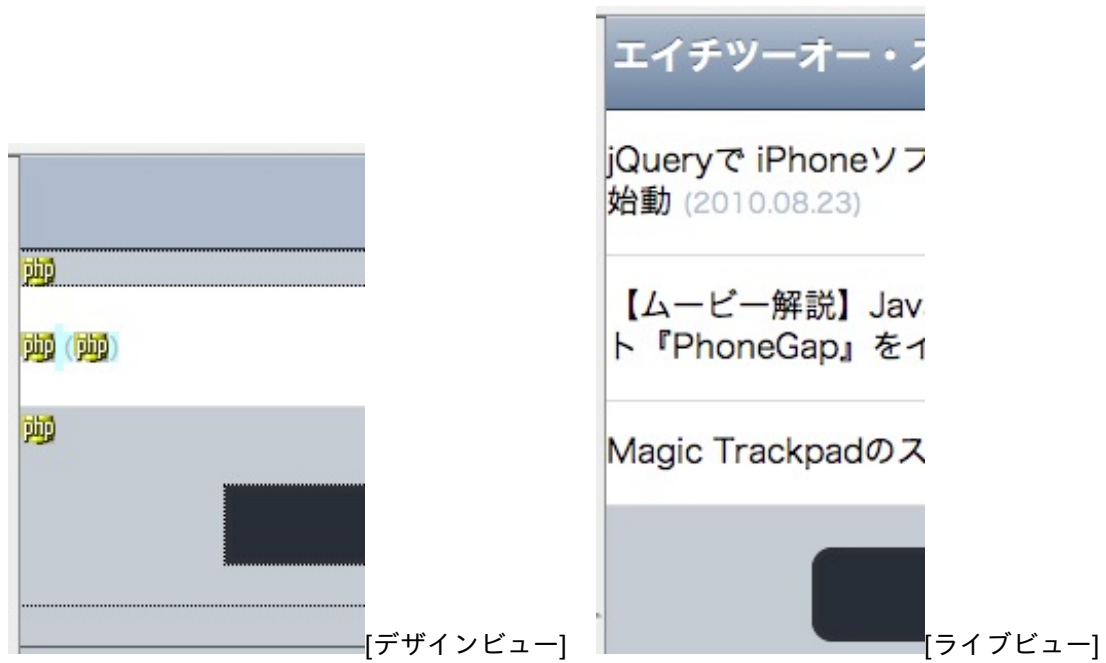
iPhoneに搭載されている「Safari」が、CSS3のWebKit先行実装を積極的に取り入れていることや、3G回線で利用すると回線速度が遅くなるため、画像を少しでも抑えてデザインをしたいことから、CSS3での装飾が非常に重要になります。

しかし、Dreamweaverに搭載されているデザインビューはCSS3のレンダリングが行えず、そのままではデザインを確認することができません。そこで活躍するのが、「ライブビュー」です。

ライブビューを利用する



ライブビューの利用は非常に簡単で、エディタ画面上部の「ライブビュー」ボタンをクリックするだけです。これにより、デザインビューがWebKitを利用したブラウザに切り替わり、Safariで閲覧するのと同様の高い再現力で確認することができます。



デザインビューと異なり、そのまま内容を編集するといったことはできないため、コードビューで変更するか、または編集するときはデザインビューに戻すといった操作が必要となります。

関連ファイル機能

Webページの制作には、CSSファイルはもちろん、JavaScriptの外部ファイルやPHPのライブラリファイルなど、1ページを構成するために多くのファイルが必要となります。



Dreamweaver CS4からは、これらの「関連ファイル」をエディタ画面上部で一覧できるようになりました。これを利用すると、デザインビューにはHTMLの内容を表示したままで、関連したCSSやJavaScript塔のファイルを書き換えることが出来るようになります。

また、PHPなども「require」「include」ファンクションを利用して読み込んだ外部ファイルは一覧されるため、開発作業にも非常に便利に利用することができます。

DreamweaverでのPHP開発をサイト設定

Dreamweaverは、PHPを始めとしてASPやJSPなど、Web開発言語の開発をサポートしています。

例えばPHPでは、拡張子が.phpのファイルを編集できるのはもちろん、次のような機能を持ち合わせています。

ファンクションやパラメータの色分け

主要なファンクションのコードヒント

ライブビューでのPHPの動作の確認

にはサーバーのみによく検索される動的関連ファイルがある可能性があります。検索 | 環境設定

```
<?php
require 'aquanotes.php';

$url = 'http://h2o-space.com/category/blog/feed';
$xml = simplexml_load_file(
?>
```

なお、ライブビューでPHPの動作を確認するためには「サイト設定」が必要になります。また、PHPの動作環境が必要となるため、レンタルサーバーなどを利用するか、またはMAMP、XAMPPなどを利用してWebサーバー環境を整える必要があります。

セットアップ方法などについて詳しくは、次の文書をご参照ください。

http://bit.ly/ascii_iphone_vol02

サイト設定について詳しくは、次の文書などを参照ください。

Learn Dreamweaver CS5 - GS-01: シンプルなサイト定義

<http://tv.adobe.com/jp/watch/learn-dreamweaver-cs5/6639/>

Adobe Spryで作るスライドパネル

iPhone特有の動作として、ボタンをタップすると画面が左側にスライドして、次の画面が表示され、逆に右にスライドして戻るといった動作がよくあります。

それと同様の動作をWebページで実現しようとした場合、さまざまなライブラリなどを利用することになります。ここでは、そんななかからAdobe Spry framework for Ajaxを利用して実現してみましょう。

HTMLを作る

次のようなHTMLを作ります。

```
<!DOCTYPE HTML>
<html>
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">
  <title>iPhoneでスライドを作るサンプル</title>
  <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1, maximum-scale=1, user-scalable=no">
</head>
<body>
</body>
</html>
```

Spryを組み込む

続いて、[Spry](#)をダウンロードして「/wddiget/slidingpanels/」フォルダをコピーします。さらに、必要なファイルを読み込みます。

Spry framework for Ajax

<http://labs.adobe.com/technologies/spry/>

```
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="slidingpanels/SprySlidingPanels.css"/>
<script type="text/javascript" src="slidingpanels/SprySlidingPanels.js"></script>
<script type="text/javascript" src="slidingpanels/SprySlidingPanels.js"></script>
```

必要なHTMLもサンプルファイルなどからコピーします。

```
<div id="slideDemo" class="SlidingPanels">
  <div class="SlidingPanelsContentGroup">
    <div id="p1" class="SlidingPanelsContent">パネル1</div>
    <div id="p2" class="SlidingPanelsContent">
      <p>パネル2</p>
    </div>
    <div id="p3" class="SlidingPanelsContent">
```

```
<p>パネル3</p>
</div>
</div>
</div>
```

通常、スライドパネルは縦にスライドするため、これを横にスライドするように CSSを調整します。

```
<style type="text/css">
#p1 {
  background-color: #6FC;
}
#p2 {
  background-color: #0CF;
}
#slideDemo.SlidingPanels {
  float: left;
}
#slideDemo .SlidingPanelsContentGroup {
  float: left;
  width: 10000px;
}
#slideDemo .SlidingPanelsContent {
  float: left;
  width: 320px;
  min-height: 480px;
}
</style>
```

プログラミングをする

各イベントに従って、パネルを左右に動かします。

```
function detail(id) {
  sp1.showNextPanel();
  window.scrollTo(0, 0);
}

function back(id) {
  sp1.showPreviousPanel();
}
```

以上で完成です。

シミュレータで表示を確認する



完成したWebページやプログラムは、実際のiPhoneで確認するのが一番ですが、もっと気軽に確認するためには「シミュレータ」をインストールしておくといでしょう。

シミュレータは、次のサイトからダウンロード出来るiPhoneソフトの開発用ソフト（XCode + iPhone SDK）をダウンロードすることで、付属ソフトとして利用することができます。

iPhone Dev Center - Apple Developer

<http://developer.apple.com/iphone/index.action>

詳しいダウンロードの方法などは、以下の文書をご参照ください。

ASCII.jp : 作って学ぶスマートフォン対応サイトの基本 | 実践！iPhone&Androidサイト制作ガイド

<http://ascii.jp/elem/000/000/538/538092/>

メディアクエリーとMultiscreen Preview

画面の幅や、スマートフォンの向きなどに合わせて柔軟にCSSを切り替えることの出来る技術が「メディアクエリー」です。

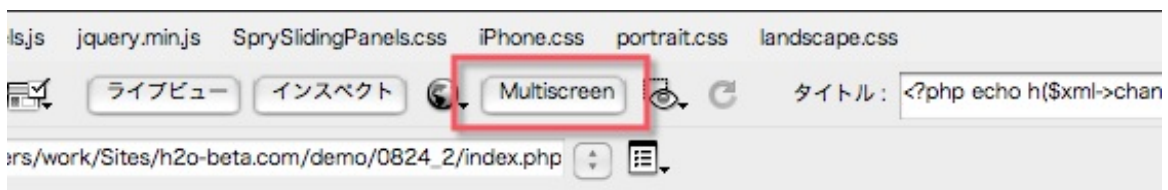
さまざまな書式がありますが、スマートフォンで使いやすいのは次のような書式です。

```
<link rel="stylesheet" media="all and (orientation:portrait)" href="portrait.css">
```

```
<link rel="stylesheet" media="all and (orientation:landscape)" href="landscape.css">
```

これにより、端末が縦向き（portrait）と横向き（landscape）で、CSSをそれぞれ切り替えることができ、幅を変更したり要素の装飾を変更したりといったことが可能になります。

また、このメディアクエリーを手軽にテストするには、DreamweaverのHTML5 Packに付属する「Multiscreen Preview」が便利です。画面の、「Multiscreen」ボタンをクリックして起動します。



□